

滋賀の生物多様性を支える 水のつながり

山

滋賀県は地殻変動でできた構造湖の琵琶湖を真ん中に据え、周りを山間に取り囲まれています。1377mの伊吹山を中心とした伊吹山地、霊仙山、御池岳などからなる鈴鹿山脈、武奈ヶ岳を中心とした比良山地、赤坂山、三国山からなる野坂山地、百里ヶ岳三国峠などからなる丹波高地、さらに、田上山などを形作る湖南アルプスがあります。変化に富んだ山の自然は多くの生きものを育み、滋賀の生物多様性を支えています。

森林

畦畔林

草地

沼地

里山

池

川

琵琶湖にそそぐ川は、野洲川、姉川、安曇川など、大小合わせておよそ460本あります。琵琶湖を取り囲む山々に降った雨は、川となり、また、時間をかけて地面にしみこみ、琵琶湖へと流れ込みます。時には、多くの酸素や養分を琵琶湖にもたらし、また、時には、濁流となり自然の猛威を見せつけながら、肥沃な土壌をもたらし、多くの酸素や養分を琵琶湖にとどけます。

河辺林

河原

一部の生き物の増加

田んぼ

琵琶湖

琵琶湖は、400万年以上もの間、絶えることなく生き物を支え続けた世界有数の古代湖です。そして、今なお少しずつ沈下を続け、これから先も生きもの達に住処を提供し続けます。長い時間が生きもの達に安定した暮らしを与え、60種程の固有種が暮らす生物多様性に富んだ環境が見られます。ところが、昭和30年代からの人々の暮らしぶりの変化は、琵琶湖の環境に大きな課題をなげかけ、生きもの達の暮らしにも影響がでてきました。さらに、一部の生きもの達の異常な繁殖は、生物多様性の脅威となっています。

内湖